

令和5年度 校内研究について

1 研究主題（昨年度に引き続き、この研究主題では2年目です。）

主体的に学びに向かい、思いや考えを伝え合う児童の育成
～本物で必然性のある外国語活動・外国語科を通して～

2 主題設定の理由

本校は平成28年度より教育特区特例校の指定を受け、外国語活動・外国語科の研究に取り組んでいる。外国語活動・外国語科を通して、自らの思いや考えをもち、関わる対象を広げながら主体的に活動できる児童の育成を目指してきた。また、義民祭・運動会など様々な学校行事、総合的な学習の時間における地域との関わり等、学校生活全体を児童一人一人の思いや願いを実現する場として捉え、自主的に行動し、思いや考えを伝え合うことのできる児童の育成を目指している。

5・6年生の英語の教科化が本格実施されたことを踏まえ、新学習指導要領で定められた内容、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力の3つの柱における「評価の工夫」を研究内容の一つの柱としてきた。教師が指導の改善を図るとともに、学習者自身が自らの学習を振り返り、自己調整しながらよりの高次の学習に向かえるよう、研究を続けているところであり、評価の在り方の工夫を今年度も引き続き研究の視点の一つとした。また、外国語活動・外国語科と各教科や学校行事等とを関連付け、学びのつながりを意識した授業づくりを行うようにする。さらに、外国語教育環境をよりよいものにし、担任教員だけでなく学校教職員の英語への慣れ親しみの機会を作ったりしていきたいと考える。これらから、主体的に学びに向かい、思いや考えを伝え合う児童を育成し、深い学びの実現へとつなげてい。

3 研究内容

○他教科との連携を生かした授業づくり

目的意識や相手意識、必然性を感じる課題設定を考えることで、児童が主体的に学びに向かい、様々な事柄への見方・考え方を広められるようにする。

○評価の在り方

児童に到達してほしい姿を示し、課題においてどのような姿を目指すのかを、児童と教師の双方が理解しながら活動することで、「学びに向かう力、人間性等」を高めることができるようにする。

○外国語教育の環境の充実（もの・人）

校内環境（掲示物など）の見直しを行うことで、校内環境のさらなる充実を図ることができるようにする。また、担任団だけでなく学校の教職員を対象に英語ミニ研修を定期的に行うことで、教職員の英語への慣れ親しみを深めることができるようにする。